

第14回「発見!水の文化」 船でめぐる名古屋の水辺～堀川・中川運河編～開催

—2019年11月30日(土) 午前の部 9:20-11:40 午後の部 13:00-15:20

Webで公開中!

講師：川地 正教（かわち まさかず）さん
一般社団法人中川運河キャナルアート 理事 川地建築設計室 主宰
柳田 哲雄（やなぎだ てつお）さん
NPO 法人伊勢湾フォーラム

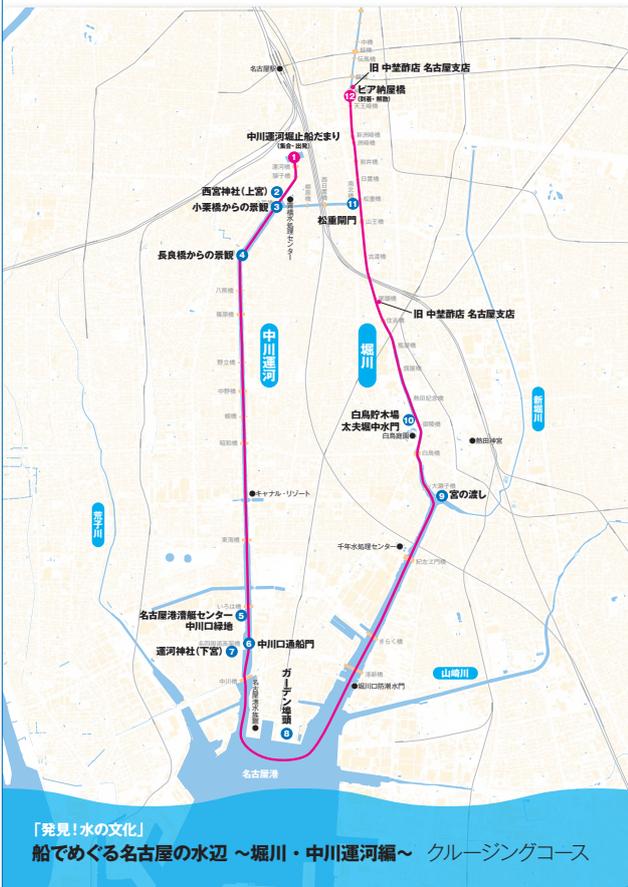
参加者数：総勢 58名

堀川・中川運河をめぐって 「水辺の歴史と文化」学ぶ

2019年11月30日(土)、愛知県名古屋市にて第14回「発見!水の文化」イベントを実施しました。今回の「発見!水の文化」は、2018年に引き続き、一般社団法人中川運河キャナルアートの協力を得て実施しました。中川運河と堀川を一気に巡ることのできる特別コースを2艘の船に分かれ、講師の川地正教さん、柳田哲雄さんの解説を聞きながらめぐりました。



午後の部 集合写真



中川口通船門

水位差のある名古屋港と中川運河をつなぐ役を果たす中川口通船門



中川運河

水質が年々回復している中川運河。カヌーを楽しむ人たちの姿も



堀川

400年ほど前につくられた堀川。左岸と右岸で取扱品が異なっていた



まつしげこうもん 松重閘門

昭和7年ごろから昭和43年ごろまで堀川と中川運河の水位差を調整していた松重閘門



当日は天気にも恵まれ、心地よい水辺を感じながらの実施となりました。講師の解説を通じて堀川・中川運河の水辺の歴史や文化、発展に向けた取り組みなどを知ること、水と人とのかかわりを感じることができました。

参加者の皆さんからは、「通船門を通り実際にしくみを体験できおもしろかったです」「大変わかりやすい説明で楽しめました」

「名古屋にずっと住んでいるが知らないことも多く勉強になりました」などの感想をいただきました。参加者の皆さん、ありがとうございました。

また、当日の様子は当センターのホームページでも公開中です。ぜひご覧ください!

<http://www.mizu.gr.jp/hakken/houkoku/>

水の文化 Information

■「水の文化」に関する情報をお寄せください

本誌「水の文化」では、今後も引き続き「人と水のかかわり」に焦点をあてた活動や調査・研究などを紹介していきます。

ユニークな水の文化楽習活動や、「水の文化」にかかわる地域に根ざした調査や研究がありましたら、自薦・他薦を問いませんので、事務局まで情報をお寄せください。

■ホームページのお問い合わせ欄をご利用ください。

<http://www.mizu.gr.jp/>

■水の文化 バックナンバーをホームページで

本誌はホームページからPDFファイルとしてダウンロードできるほか、冊子をご希望の方はホームページの「最新号のお申し込みボタン」からお申し込みいただけます。どうぞご利用ください。

■「水にかかわる生活意識調査」ホームページで公開中

20年以上にわたり、ほぼ同じ内容で日常生活と水とのかかわりや意識、水と文化に関する生活意識調査を実施しています。結果はすべて公開していますので、ぜひご利用ください。

皆さまの感想を お待ちしております！

『水の文化』64号について、アンケートにご協力ください。
今後の機関誌をよりよくしていくための参考にさせていただきます。

◆アンケートへの回答はこちらから。

<http://www.mizu.gr.jp/form64.html>



※アンケート用紙をお持ちの方は、FAXまたはメールにて
下記へご返信いただく形でも結構です。

FAX: 03-3568-4025

メールアドレス: mizubun@mizu.gr.jp

編集後記

取材前にお会いした方から水河と水循環のお話を伺い、新たな知識や視座を得る期待感の高いテーマでした。ご協力いただいた方のお話はどれも知識欲を満たす内容でしたが、それ以上に水河の秘めた魅力やそれに携わる方々の考え方や人間性から、水河を通して地球規模で考えることで環境や水循環に対する考え方が変わるような気がして、そこには清々しさにも似た感覚を得ることができました。(五)

「水河」は漠然とした存在だったが、熱い情熱を持った日本の研究者たちが世界をリードしながら研究を進めていることを知り、彼らの口から研究意義を聞くことで一気に興味が沸いてきた。同様に今号で水河に興味を持った方には、「南極・北極科学館」をお勧めしたい。極地観測の歴史や研究成果が分かりやすく展示・解説されており、更なる水河の魅力にもふれられる。実物の南極水河にもふれられます！(松)

水河という特集テーマを聞いた時、「ずいぶん遠い場所の話だな」と感じていました。しかし特集記事を読み込んでいくうちに、地球規模の大きな水循環の中で、実は自分たちの生活から遠くない場所に水河が関わっているという事を知りました。無関心というわけでは無かったけれど、もっと気候変動や水河について関心を持つべきだと思いました。(飯)

昨年「宇宙よりも遠い場所」というアニメを観た。高校生が南極を目指す物語だが、タイトルの通りある意味宇宙に行くよりも困難な極地だということがリアルに描かれている。私の「水河」のイメージも、宇宙と同等の肌で感じることで、きない遙か彼方の世界。しかし「水河」が地球の水循環に大きな影響を与えていることを知った。生活に直結するわけでもないスケールの大きな話だが、不思議と身近に感じた。(力)

生態学者、人類学者で探検家でもあった今西錦司氏は、生前に「ヨーロッパは水河の影響をまともに受けてきたからこそ、自然を『征服すべきもの』と思っているのではないか」と述べている(『季刊大林』No.15 1983)。日本にも水河はあるもの、もっとも寒い時期でも本州の平野部まで拡大した痕跡はないという。日本と西欧の自然観の違いに、水河の分布範囲も関係しているとすれば興味深い。(前)

ミツカン水の文化センター機関誌

水の文化 第64号

ホームページアドレス

<http://www.mizu.gr.jp/>

発行

ミツカン水の文化センター

〒104-0033 東京都中央区新川 1-22-15 茅場町中埜ビル

株式会社 Mizkan Partners

Tel. 03 (3555) 2607 Fax. 03 (3297) 8578

発行日

2020年(令和2年)2月初版1刷

企画協力 (氏名50音順)

沖 大幹 東京大学未来ビジョン研究センター教授

古賀邦雄 水・河川・湖沼関係文献研究会

陣内秀信 法政大学名誉教授

鳥越皓之 大手前大学学長

中庭光彦 多摩大学教授

制作

浦本五郎

松本裕佳

小林夕夏

久保悦史

飯野真奈実

編集製作

前川太郎 編集

中野公力 デザイン・撮影

蔵田 豊 デザイン

執筆

秋山健一郎 (pp.14-17)

佐々木 聖 (pp.10-13)

手塚ひとみ (pp.22-25)

開 洋美 (pp.18-21)

前川太郎 (pp.6-9, pp.26-34)

撮影

大平正美 (p.6, p.11)

葛西亜理沙 (p.15, p.22)

川本聖哉 (p.18, pp.26-31)

鈴木拓也 (pp.42-43)

中野公力 (pp.44-49)

藤牧徹也 (pp.32-34, pp.38-41)

描画

赤木あゆ子 (p.7, p.12, p.19,

p.20, p.23, p.34)

印刷

中埜総合印刷株式会社

※禁無断転載複写転売